

イヌ	90日間 亜急性毒性 試験	0、10、30、80、 200	雌雄：30	雌雄：80	雌雄：ALP増加、BUN 及びAlb減少等
	1年間 慢性毒性試験	0、2、10、80	雌雄：10	雌雄：80	雌雄：低体重等

1) 備考に最小毒性量で認められた毒性所見の概要を示した。

各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた2世代繁殖試験の親動物の雄における0.48 mg/kg 体重/日であったが、より長期の試験であるラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験の無毒性量は1.9 mg/kg 体重/日であった。この無毒性量の差は用量設定の違いによるものであると考えられることに加え、2年間慢性毒性/発がん性併合試験の方が2世代繁殖試験等より長期の試験であることを考慮し、ラットにおける無毒性量は1.9 mg/kg 体重/日とするのが妥当であると考えられた。したがって食品安全委員会は、ラットにおける2年間慢性毒性/発がん性併合試験の無毒性量1.9 mg/kg 体重/日を根拠として、安全係数100で除した0.019 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量（ADI）と設定した。

ADI	0.019 mg/kg 体重/日
(ADI設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	1.9 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

<別紙 1 : 代謝物/分解物略称>

記号	略称	化学名
B	馬尿酸	ベンゾイルアミノ-酢酸
C	ベンジルスルホン酸	フェニル-メタンスルホン酸
D	ベンジルメチルスルホキシド	メタンスルフィニルメチル-ベンゼン
E	ベンジルメチルスルホン	メタンスルホニルメチル-ベンゼン
F		2-{2-[(3,4-ジヒドロキシ-シクロヘキサ-1,5-ジエニルメチル)-アミノ]-アセチルアミノ}-3-メルカプト-プロピオン酸
G		(5-ジプロピルカルバモイルスルファニルメチル-2-ヒドロキシ-フェニルアミノ)-酢酸 あるいは 2-(5-ジプロピルカルバモイルスルファニルメチル-2-ヒドロキシ-フェニルアミノ)-3-メルカプトプロピオン酸
H		ジプロピル-チオカルバミン酸 S-[(3,4-ジヒドロキシ-フェニル)-メチル]エステルとグルコースの結合物
I		プロピル-チオカルバミン酸 S-[4-(3,4,5-トリヒドロキシ-テトラヒドロ-ピラン-2-イルオキシ)-ベンジル]エステル
J		ジプロピル-チオカルバミン酸 S-[ヒドロキシ-(3,4,5-トリヒドロキシ-6-ヒドロキシメチル-テトラヒドロ-ピラン-2-イルオキシ)-ベンジル]エステル
K		3-フェニルメタンスルフィニル-2-(3,4,5-トリヒドロキシ-6-ヒドロキシメチル-テトラヒドロ-ピラン-2-イルオキシ)-プロピオン酸
L		6-(2-ベンゾイルオキシ-1-ヒドロキシメチル-エトキシ)-3,4,5-トリヒドロキシ-テトラヒドロ-ピラン-2-カルボン酸
M		3-ベンジルスルファニル-2-(3,4,5-トリヒドロキシ-6-ヒドロキシメチル-テトラヒドロ-ピラン-2-イルオキシ)-プロピオン酸
N		プロピル-[2-(3,4,5-トリヒドロキシ-6-ヒドロキシメチル-テトラヒドロ-ピラン-2-イルオキシ)-プロピル]-チオカルバミン酸 S-ベンジルエステル
O		ジプロピル-チオカルバミン酸 S-[(3,4,5-トリヒドロキシ-6-ヒドロキシメチル-テトラヒドロ-ピラン-2-イルオキシ)-ベンジル]エステル
P		6-{6-[2-(ベンジルスルファニルカルボニル-プロピル-アミノ)-1-メチル-エトキシ]-3,4,5-トリヒドロキシ-テトラヒドロ-ピラン-2-イルメトキシ}-3,4,5-トリヒドロキシ-テトラヒドロ-ピラン-2-カルボン酸
Q		3,4,5,6-テトラヒドロキシ-テトラヒドロ-ピラン-2-カルボン酸 2-{6-[2-(ベンジルスルファニルカルボニル-プロピル-アミノ)-1-メチル-エトキシ]-3,4,5-トリヒドロキシ-テトラヒドロ-ピラン-2-イルメトキシカルボニル}-2-ヒドロキシ-エチルエステル

R		プロピル-チオカルバミン酸 <i>S</i> -ベンジルエステル
S		(2-ヒドロキシ-プロピル)-プロピル-チオカルバミン酸 <i>S</i> -(ヒドロキシ-ベンジル)エステル
T		ジプロピル-チオカルバミン酸 <i>S</i> -(ヒドロキシ-ベンジル)エステル
U		安息香酸
V	プロスルホカ ルブスルホキ シド	1-[(フェニルメチル)スルフィニル]- <i>N,N</i> -ジプロピル-ホルムアミド
W		ベンジルアルコール
X		ベンズアルデヒド
原体 混在 物	原体混在物①	(原体混在物)

<別紙 2 : 検査値等略称>

略称	名称
AChE	アセチルコリンエステラーゼ
ai	有効成分量
Alb	アルブミン
ALP	アルカリホスファターゼ
AUC	薬物濃度曲線下面積
BUN	血液尿素窒素
ChE	コリンエステラーゼ
C _{max}	最高濃度
Cre	クレアチニン
FOB	機能観察総合検査
Hb	ヘモグロビン (血色素量)
Ht	ヘマトクリット値
IC ₅₀	半数阻害濃度
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
MCHC	平均赤血球血色素濃度
MCV	平均赤血球容積
PHI	最終使用から収穫までの日数
PLT	血小板数
PPT	部分トロンボプラスチン時間
RBC	赤血球数
T _{1/2}	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T _{max}	最高濃度到達時間
TRR	総残留放射能
UDS	不定期 DNA 合成

<別紙3：作物残留試験成績（国内）>

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度	試験 圃場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最大値	平均値	最大値	平均値
小麦 (露地) [玄麦] 2004~2005年	1	3,920	2	80	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	3,920	2	162	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
大麦 (露地) [玄麦] 2004~2005年	1	3,920	2	80	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	3,920	2	147	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
とうもろこし [未成熟子実] 2007年	1	3,920	1	78	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	3,920	1	87	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
とうもろこし [乾燥子実] 2007年	1	3,920	1	98	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	3,920	1	109	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
とうもろこし [青刈り] 2007年	1	3,920	1	78	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	3,920	1	98	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ばれいしょ [塊茎] 2007年	1	3,920	1	86	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	3,920	1	102	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度	試験 圃場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最大値	平均値	最大値	平均値
たまねぎ [鱗茎] 2007年	1	3,920	2	52	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	67	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	82	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	3,920	2	45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	60	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	75	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
たまねぎ [鱗茎] 2009年	1	3,920	2	45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
にんじん [根部] 2008年	1	3,920	1	97	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	3,920	1	108	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

- ・処理方法は全面土壌散布とし、乳剤を用いた。
- ・すべてのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。

<別紙 4 : 作物残留試験成績 (海外) >

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
えんどうまめ (莢) 2005年	4,000	1	1	69	<0.01
えんどうまめ (茎) 2005年	4,000	1	1	69	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 2005年	4,000	1	1	80	<0.01
えんどうまめ (茎) 2005年	4,000	1	1	80	<0.01
えんどうまめ (莢) 2005年	4,000	1	1	70	<0.01
えんどうまめ (茎) 2005年	4,000	1	1	70	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 2005年	4,000	1	1	92	<0.01
えんどうまめ (茎) 2005年	4,000	1	1	92	<0.01
えんどうまめ (莢) 2006年	4,000	1	1	85	<0.01
えんどうまめ (茎) 2006年	4,000	1	1	85	0.02
えんどうまめ (乾燥子実) 2006年	4,000	1	1	106	<0.01
えんどうまめ (茎) 2006年	4,000	1	1	106	<0.01
えんどうまめ (莢) 2006年	4,000	1	1	99	<0.01
えんどうまめ (茎) 2006年	4,000	1	1	99	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 2006年	4,000	1	1	121	<0.01

作物名' (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
えんどうまめ (茎) 2006年	4,000	1	1	121	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	42	0.01
えんどうまめ (茎) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	105	0.02
えんどうまめ (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	105	<0.01
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	105	<0.01
えんどうまめ (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	105	<0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	113	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	113	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	42	<0.01
えんどうまめ (茎) 1988年	4,000	1	1	105	0.01
えんどうまめ (子実) 1988年	4,000	1	1	105	<0.01
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4,000	1	1	105	<0.01
えんどうまめ (莢) 1988年	4,000	1	1	105	<0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4,000	1	1	113	0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4,000	1	1	113	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	20	0.04
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	41	<0.01
えんどうまめ (茎) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	92	<0.01
えんどうまめ (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	92	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	92	<0.01
えんどうまめ (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	92	0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	119	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	119	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	20	0.02
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	41	<0.01
えんどうまめ (茎) 1988年	4,000	1	1	92	<0.01
えんどうまめ (子実) 1988年	4,000	1	1	92	<0.01
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4,000	1	1	92	<0.01
えんどうまめ (莢) 1988年	4,000	1	1	92	<0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4,000	1	1	119	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4,000	1	1	119	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	41	0.02
えんどうまめ (茎) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	75	<0.01
えんどうまめ (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	75	<0.01
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	75	<0.01
えんどうまめ (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	75	<0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	96	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	96	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	21	0.08
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	41	0.02
えんどうまめ (茎) 1988年	4,000	1	1	75	<0.01
えんどうまめ (子実) 1988年	4,000	1	1	75	<0.01
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4,000	1	1	75	<0.01
えんどうまめ (莢) 1988年	4,000	1	1	75	<0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4,000	1	1	96	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4,000	1	1	96	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	34	0.24
えんどうまめ (茎) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	89	<0.01
えんどうまめ (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	89	<0.01
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	89	<0.01
えんどうまめ (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	89	<0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	113	0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	113	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	34	0.19
えんどうまめ (茎) 1988年	4,000	1	1	89	<0.01
えんどうまめ (子実) 1988年	4,000	1	1	89	<0.01
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4,000	1	1	89	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
えんどうまめ (莢) 1988年	4,000	1	1	89	<0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4,000	1	1	113	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4,000	1	1	113	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4000 ^{EW}	1	1	27	0.40
えんどうまめ (植物体) 1988年	4000 ^{EW}	1	1	40	0.03
えんどうまめ (茎) 1988年	4000 ^{EW}	1	1	91	<0.01
えんどうまめ (子実) 1988年	4000 ^{EW}	1	1	91	<0.01
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4000 ^{EW}	1	1	91	<0.01
えんどうまめ (莢) 1988年	4000 ^{EW}	1	1	91	<0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4000 ^{EW}	1	1	112	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4000 ^{EW}	1	1	112	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	27	0.36
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	40	0.02
えんどうまめ (茎) 1988年	4,000	1	1	91	<0.01
えんどうまめ (子実) 1988年	4,000	1	1	91	<0.01
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4,000	1	1	91	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
えんどうまめ (莢) 1988年	4,000	1	1	91	<0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4,000	1	1	112	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4,000	1	1	112	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	39	<0.01
えんどうまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	62	<0.01
えんどうまめ (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	96	<0.01
えんどうまめ (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	96	<0.01
えんどうまめ (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	96	<0.01
えんどうまめ (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	116	<0.01
えんどうまめ (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	116	<0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	29	0.10
そらまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	38	0.14
そらまめ (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	127	<0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	31	0.17
そらまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	36	0.01
そらまめ (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	156	<0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	31	0.10

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
そらまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	36	0.02
そらまめ (子実) 1988年	4,000	1	1	156	<0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	31	0.02
そらまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	41	0.02
そらまめ (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	146	<0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	31	0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	41	0.02
そらまめ (子実) 1988年	4,000	1	1	146	<0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	29	0.12
そらまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	44	0.02
そらまめ (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	140	<0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	29	0.17
そらまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	44	0.01
そらまめ (子実) 1988年	4,000	1	1	140	<0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	21	3.1
そらまめ (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	42	0.06
そらまめ (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	125	<0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	21	<0.01
そらまめ (植物体) 1988年	4,000	1	1	42	0.02

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
そらまめ (子実) 1988年	4,000	1	1	125	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000	1	1	58	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000	1	1	73	<0.01
そらまめ (子実) 1989年	4,000	1	1	153	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	58	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	73	<0.01
そらまめ (子実) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	153	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000	1	1	54	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000	1	1	64	<0.01
そらまめ (子実) 1989年	4,000	1	1	135	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	54	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	64	<0.01
そらまめ (子実) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	135	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000	1	1	46	0.14
そらまめ (植物体) 1989年	4,000	1	1	58	0.02

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
そらまめ (子実) 1989年	4,000	1	1	155	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	46	0.08
そらまめ (植物体) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	58	0.02
そらまめ (子実) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	155	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000	1	1	42	0.02
そらまめ (植物体) 1989年	4,000	1	1	51	0.04
そらまめ (子実) 1989年	4,000	1	1	155	<0.01
そらまめ (植物体) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	42	0.02
そらまめ (植物体) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	51	0.04
そらまめ (子実) 1989年	4,000 ^{EW}	1	1	155	<0.01
たまねぎ (鱗茎) 1999年	3,700	1	1	95	<0.01
	4,000	1	1	109	<0.01
たまねぎ (鱗茎) 1999年	4,420	1	1	110	<0.01
	3,640	1	1	117	<0.01
たまねぎ (植物全体) 2003年	4,000	1	1	59	0.01
	4,000	1	1	80	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
たまねぎ (鱗茎) 2003年	4,000	1	1	100	<0.01
たまねぎ (植物全体) 2004年	4,000	1	1	59	<0.01
	4,000	1	1	80	<0.01
たまねぎ (鱗茎) 2004年	4,000	1	1	100	<0.01
たまねぎ (植物全体) 2004年	3,200	1	1	60	<0.01
	3,200	1	1	80	<0.01
たまねぎ (鱗茎) 2004年	3,200	1	1	100	<0.01
	3,200	1	1	107	<0.01
たまねぎ (鱗茎) 2004年	4,000	1	1	61	<0.01
	4,000	1	1	70	<0.01
	4,000	1	1	80	<0.01
たまねぎ (植物全体) 2004年	3,200	1	1	74	<0.01
たまねぎ (鱗茎) 2004年	3,200	1	1	100	<0.01
たまねぎ (鱗茎) 2004年	4,000	1	1	80	<0.01
たまねぎ (鱗茎) 2004年	4,000	1	1	75	<0.01
	4,000	1	1	86	<0.01
たまねぎ (鱗茎) 2004年	4,000	1	1	75	<0.01
	4,000	1	1	84	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
たまねぎ (鱗茎) 2001年	3,200	1	1	112	<0.02
たまねぎ (鱗茎) 2001年	3,200	1	1	113	<0.02
たまねぎ (鱗茎) 2002年	3,200	1	1	106	<0.02
たまねぎ (鱗茎) 2002年	3,200	1	1	69	<0.02
たまねぎ (鱗茎) 2002年	3,200	1	1	86	0.10*
リーキ (植物全体) 2004年	3,200	1	1	75	<0.01
	3,200	1	1	90	<0.01
	3,200	1	1	104	<0.01
リーキ (植物全体) 2004年	4,000	1	1	60	<0.01
	4,000	1	1	70	<0.01
	4,000	1	1	81	<0.01
リーキ (植物全体) 2004年	3,200	1	1	90	<0.01
	3,200	1	1	145	<0.01
リーキ (植物全体) 2004年	4,000	1	1	78	<0.01
リーキ (植物全体) 2004年	4,000	1	1	81	<0.01
	4,000	1	1	95	<0.01
	4,000	1	1	109	<0.01
	4,000	1	1	123	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
リーキ (植物全体) 2004年	4,000	1	1	59	<0.01
	4,000	1	1	70	<0.01
	4,000	1	1	80	<0.01
リーキ (植物全体) 2004年	4,000	1	1	88	<0.01
	4,000	1	1	102	<0.01
リーキ (植物全体) 2004年	4,000	1	1	80	<0.01
リーキ (鱗茎) 2005年	4,000	1	1	189	<0.01
リーキ (鱗茎) 2005年	4,000	1	1	103	<0.01
リーキ (葉) 2005年	4,000	1	1	103	<0.01
リーキ (鱗茎) 2005年	4,000	1	1	98	<0.01
リーキ (葉) 2005年	4,000	1	1	98	<0.01
葉たまねぎ (植物全体) 2003年	4,000	1	1	59	0.01
	4,000	1	1	80	<0.01
葉たまねぎ (鱗茎) 2003年	4,000	1	1	100	<0.01
葉たまねぎ (植物全体) 2004年	4,000	1	1	59	<0.01
	4,000	1	1	80	<0.01
葉たまねぎ (鱗茎) 2004年	4,000	1	1	100	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
葉たまねぎ (植物全体) 2004年	3,200	1	1	60	<0.01
	3,200	1	1	80	<0.01
葉たまねぎ (鱗茎) 2004年	3,200	1	1	100	<0.01
	3,200	1	1	107	<0.01
葉たまねぎ (鱗茎) 2004年	4,000	1	1	61	<0.01
	4,000	1	1	70	<0.01
	4,000	1	1	80	<0.01
葉たまねぎ (植物全体) 2004年	3,200	1	1	74	<0.01
葉たまねぎ (鱗茎) 2004年	3,200	1	1	100	<0.01
葉たまねぎ (鱗茎) 2004年	4,000	1	1	80	<0.01
葉たまねぎ (植物全体) 2001年	3,200	1	1	80	<0.02
葉たまねぎ (植物全体) 2001年	3,200	1	1	79	<0.02
葉たまねぎ (植物全体) 2001年	3,200	1	1	56	<0.02
にんじん (植物全体) 2002年	4,030	1	1	21	7.1
にんじん (根部) 2002年	4,030	1	1	21	1.1
にんじん (葉部) 2002年	4,030	1	1	21	15.4
にんじん (根部) 2002年	4,030	1	1	32	0.6

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
にんじん (葉部) 2002年	4,030	1	1	32	12.4
にんじん (根部) 2002年	4,110	1	1	60	0.04
にんじん (葉部) 2002年	4,110	1	1	60	2.6
にんじん (根部) 2002年	3,870、3,780	1	2	60	0.03
にんじん (葉部) 2002年	3,870、3,780	1	2	60	1.4
にんじん (根部) 2002年	4,300	1	1	43	0.33
にんじん (葉部) 2002年	4,300	1	1	43	4.8
にんじん (根部) 2002年	3,880、4,340	1	2	43	0.24
にんじん (葉部) 2002年	3,880、4,340	1	2	43	3.5
にんじん (植物全体) 2002年	4,070	1	1	0	100
	4,070	1	1	21	8.9
にんじん (根部) 2002年	4,070	1	1	44	1.1
にんじん (葉部) 2002年	4,070	1	1	44	3.5
にんじん (根部) 2002年	4,070	1	1	60	0.75
にんじん (葉部) 2002年	4,070	1	1	60	0.54
にんじん (根部)	4,000	1	1	45	0.02

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
2004年	4,000	1	1	59	<0.01
	4,000	1	1	79	<0.01
	4,000	1	1	100	<0.01
	4,000	1	1	119	<0.01
にんじん (根部) 2004年	4,000	1	1	45	<0.01
	4,000	1	1	59	<0.01
	4,000	1	1	79	<0.01
	4,000	1	1	100	<0.01
	4,000	1	1	119	<0.01
にんじん (根部) 2006年	3,200	1	1	50	0.17
	4,800	1	1	50	0.23
にんじん (根部) 2006年	3,200	1	1	50	0.20
	4,800	1	1	50	0.34
にんじん (根部) 2002年	4,000	1	1	59	0.34
にんじん (葉部) 2002年	4,000	1	1	59	5.8
にんじん (根部) 2002年	4,000	1	2	59	0.72
にんじん (葉部) 2002年	4,000	1	2	59	8.6
にんじん (植物全体)	4,000	1	1	0	125

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
2002年	4,000	1	1	22	12.9
にんじん (根部) 2002年	4,000	1	1	44	0.36
にんじん (葉部) 2002年	4,000	1	1	44	15.5
にんじん (根部) 2002年	4,000	1	1	59	0.34
にんじん (葉部) 2002年	4,000	1	1	59	11.2
にんじん (植物体全体) 2004年	4,000	1	1	41	0.54
	4,000	1	1	63	0.35
	4,000	1	1	83	0.15
にんじん (根部) 2004年	4,000	1	1	97	0.01
	4,000	1	1	103	0.04
にんじん (植物体全体) 2004年	4,000	1	1	48	0.19
	4,000	1	1	61	0.09
	4,000	1	1	76	0.08
にんじん (根部) 2004年	4,000	1	1	96	0.02
	4,000	1	1	124	0.02
セルリー (葉) 2006年	4,430	1	1	70	0.038
セルリー (茎) 2006年	4,430	1	1	70	0.054

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
セルリー (葉) 2006年	4,160	1	1	70	0.058
セルリー (茎) 2006年	4,160	1	1	70	0.097
セルリー (茎) 2002年	3,390	1	1	59	0.771
	3,520	1	1	60	0.189
セルリー (茎) 2003年	3,290	1	1	63	<0.01
	3,290	1	1	63	<0.01
セルリー (茎) 2005年	4,000	1	1	83	0.010
	3,200	1	1	50	0.431
	3,250	1	1	83	<0.010
セルリアック (根) 2002年	3,370	1	1	143	0.035
	3,200	1	1	118	<0.02
	3,200	1	1	169	<0.02
セルリアック (根) 2003年	3,380	1	1	91	0.027
	3,200	1	1	103	<0.02
実えんどう (莢) 2005年	4,000	1	1	69	<0.01
実えんどう (茎) 2005年	4,000	1	1	69	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 2005年	4,000	1	1	80	<0.01
実えんどう (茎) 2005年	4,000	1	1	80	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
実えんどう (莢) 2005年	4,000	1	1	70	<0.01
実えんどう (茎) 2005年	4,000	1	1	70	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 2005年	4,000	1	1	92	<0.01
実えんどう (茎) 2005年	4,000	1	1	92	<0.01
実えんどう (莢) 2006年	4,000	1	1	85	<0.01
実えんどう (茎) 2006年	4,000	1	1	85	0.02
実えんどう (乾燥子実) 2006年	4,000	1	1	106	<0.01
実えんどう (茎) 2006年	4,000	1	1	106	<0.01
実えんどう (莢) 2006年	4,000	1	1	99	<0.01
実えんどう (茎) 2006年	4,000	1	1	99	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 2006年	4,000	1	1	121	<0.01
実えんどう (茎) 2006年	4,000	1	1	121	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	42	0.01
実えんどう (茎) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	105	0.02
実えんどう (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	105	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	105	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
実えんどう (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	105	<0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	113	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	113	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000	1	1	42	<0.01
実えんどう (茎) 1988年	4,000	1	1	105	0.01
実えんどう (子実) 1988年	4,000	1	1	105	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000	1	1	105	<0.01
実えんどう (莢) 1988年	4,000	1	1	105	<0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000	1	1	113	0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000	1	1	113	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	20	0.04
	4,000 ^{EW}	1	1	41	<0.01
実えんどう (茎) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	92	<0.01
実えんどう (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	92	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	92	<0.01
実えんどう (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	92	0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	119	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	119	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000	1	1	20	0.02

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
	4,000	1	1	41	<0.01
実えんどう (茎) 1988年	4,000	1	1	92	<0.01
実えんどう (子実) 1988年	4,000	1	1	92	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000	1	1	92	<0.01
実えんどう (莢) 1988年	4,000	1	1	92	<0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000	1	1	119	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000	1	1	119	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	41	0.02
実えんどう (茎) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	75	<0.01
実えんどう (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	75	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	75	<0.01
実えんどう (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	75	<0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	96	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	96	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000	1	1	21	0.08
	4,000	1	1	41	0.02
実えんどう (茎) 1988年	4,000	1	1	75	<0.01
実えんどう (子実) 1988年	4,000	1	1	75	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000	1	1	75	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
実えんどう (莢) 1988年	4,000	1	1	75	<0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000	1	1	96	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000	1	1	96	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	34	0.24
実えんどう (茎) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	89	<0.01
実えんどう (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	89	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	89	<0.01
実えんどう (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	89	<0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	113	0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	113	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000	1	1	34	0.19
実えんどう (茎) 1988年	4,000	1	1	89	<0.01
実えんどう (子実) 1988年	4,000	1	1	89	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000	1	1	89	<0.01
実えんどう (莢) 1988年	4,000	1	1	89	<0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000	1	1	113	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000	1	1	113	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	27	0.40
	4,000 ^{EW}	1	1	40	0.03

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
実えんどう (茎) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	91	<0.01
実えんどう (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	91	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	91	<0.01
実えんどう (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	91	<0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	112	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	112	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000	1	1	27	0.36
	4,000	1	1	40	0.02
実えんどう (茎) 1988年	4,000	1	1	91	<0.01
実えんどう (子実) 1988年	4,000	1	1	91	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000	1	1	91	<0.01
実えんどう (莢) 1988年	4,000	1	1	91	<0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000	1	1	112	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000	1	1	112	<0.01
実えんどう (植物体) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	39	<0.01
	4,000 ^{EW}	1	1	62	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
実えんどう (子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	96	<0.01
実えんどう (莢+子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	96	<0.01
実えんどう (莢) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	96	<0.01
実えんどう (茎(乾燥)) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	116	<0.01
実えんどう (乾燥子実) 1988年	4,000 ^{EW}	1	1	116	<0.01
ひまわり (植物体) 1992年	4,000	1	1	37	0.05
	4,000	1	1	44	0.07
	4,000	1	1	55	0.03
ひまわり (種子) 1992年	4,000	1	1	128	<0.01
ひまわり (植物体) 1992年	4,000	1	1	44	0.07
	4,000	1	1	49	0.05
	4,000	1	1	56	0.03
ひまわり (種子) 1992年	4,000	1	1	141	<0.01
ひまわり (植物体) 1992年	4,000	1	1	41	0.08
	4,000	1	1	52	0.09
	4,000	1	1	59	0.08
ひまわり (種子) 1992年	4,000	1	1	132	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃 場数	回数 (回)	PHI (日)	分析結果 プロスルホカルブ (分析値、mg/kg)
ひまわり (植物体) 1992年	4,000	1	1	41	0.04
	4,000	1	1	48	0.07
	4,000	1	1	53	0.07
ひまわり (種子) 1992年	4,000	1	1	126	<0.01
ひまわり (種子) 1993年	4,000	1	1	139	<0.01
	4,000	1	1	151	<0.01
	4,000	1	1	151	<0.01
	4,000	1	1	154	<0.01
	4,000	1		149	<0.01
	4,000	1	1	145	<0.01
ひまわり (種子) 2005年	4,000	1	1	133	<0.01
	4,000	1	1	124	<0.01
キャラウェイ (種子) 1995年	3,200	1	1	76	<0.02
	3,200	1	1	98	<0.02
キャラウェイ (種子) 1997年	3,200	1	1	120	0.093
	3,200	1	1	77	0.126
キャラウェイ (種子) 1999年	3,200	1	1	95	0.07

注)・すべてのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。

・試験には乳剤を用いた。このうち、EWはEW製剤。

・* : 外れ値。

<参照>

- 1 農薬抄録プロスルホカルブ（除草剤）：シンジェンタ ジャパン株式会社、平成20年6月11日改訂、一部公表
- 2 動物代謝（ラット/血中濃度/単回経口/フェニル環標識）M-04：Inveresk（英国）、2005年、未公表
- 3 動物代謝（ラット/吸収/分布/排泄/代謝物同定/単回経口/フェニル環標識）M-01：Stauffer Chemical Co. Mountain View Research Center（米国）、1987年、未公表
- 4 動物代謝（ラット/吸収/排泄/組織内分布/代謝物同定/単回経口/フェニル環標識）M-03：Syngenta Central Toxicology Laboratory（英国）、2006年、未公表
- 5 動物代謝（ラット/排泄/組織分布/代謝物同定/単回・反復経口/フェニル環標識）M-02：ICI Central Toxicology Laboratory（英国）、1992年、未公表
- 6 植物代謝（大麦/フェニル環標識）M-06：Syngenta Crop Protection Inc.（米国）、2006年、未公表
- 7 植物代謝（小麦/フェニル環標識）M-07：ICI Agrochemicals Jealott's Hill Research Station（英国）、1991年、未公表
- 8 植物代謝（えんどう/フェニル環標識）M-08：ICI Agrochemicals Jealott's Hill Research Station（英国）、1992年、未公表
- 9 植物代謝（ばれいしょ/フェニル環標識）M-09：ICI Agrochemicals Jealott's Hill Research Station（英国）、1992年、未公表
- 10 土壌代謝（好気的条件/フェニル環標識）M-10：Stauffer Chemical Co. Mountain View Research Center（米国）、1987年、未公表
- 11 土壌代謝（好気的条件/フェニル環標識）M-11：RCC（スイス）、2004年、未公表
- 12 土壌代謝（好気的 - 嫌気的条件/フェニル環標識）M-13：Stauffer Chemical Co. Mountain View Research Center（米国）、1987年、未公表
- 13 土壌吸着脱着（5土壌/フェニル環標識）M-19：Syngenta Crop Protection AG（スイス）、2004年、未公表
- 14 加水分解（緩衝液/フェニル環標識）M-16：Syngenta Crop Protection AG（スイス）、2004年、未公表
- 15 水中光分解（滅菌緩衝液/フェニル環標識）M-17：Huntingdon Life Science（英国）、2000年、未公表
- 16 水中光分解（滅菌自然水/フェニル環標識）M-18：Syngenta Jealott's Hill International Research Centre（英国）、2005年、未公表
- 17 プロスルホカルブ 土壌残留性試験成績：シンジェンタ ジャパン株式会社、未公表
- 18 プロスルホカルブ 作物残留性試験成績：シンジェンタ ジャパン株式会社、未公表

- 19 生体の機能に及ぼす影響 T-26 : Syngenta Central Toxicology Laboratory (英国)、2006年、未公表
- 20 急性経口毒性(ラット/原体) T-01a : Stauffer Chemical Co. Richmond Toxicology Laboratory (米国)、1984年、未公表
- 21 急性経口毒性(マウス/原体) T-02 : RCC (スイス)、1986年、未公表
- 22 急性経皮毒性(ウサギ/原体) T-01b : Stauffer Chemical Co. Richmond Toxicology Laboratory (米国)、1984年、未公表
- 23 急性吸入毒性(ラット/原体) T-03 : Stauffer Chemical Co. Environmental Health Center (米国)、1985年、未公表
- 24 急性神経毒性(ラット/原体) T-05 : Syngenta Central Toxicology Laboratory (英国)、2004年、未公表
- 25 急性遅発性神経毒性(ニワトリ/原体) T-06 : Stauffer Chemical Co. Richmond Toxicology Laboratory (米国)、1986年、未公表
- 26 眼刺激性(ウサギ/原体) T-01d : Stauffer Chemical Co. Richmond Toxicology Laboratory (米国)、1984年、未公表
- 27 皮膚刺激性(ウサギ/原体) T-01c : Stauffer Chemical Co. Richmond Toxicology Laboratory (米国)、1984年、未公表
- 28 皮膚感作性(マウス/原体) T-04 : Zeneca Central Toxicology Laboratory (英国)、1999年、未公表
- 29 90日間反復経口投与毒性(ラット/混餌/原体) T-08 : Stauffer Chemical Co. Environmental Health Center (米国)、1985年、未公表
- 30 90日間反復経口投与毒性(イヌ/経口/原体) T-09 : Stauffer Chemical Co. Environmental Health Center (米国)、1986年、未公表
- 31 反復経口投与神経毒性(ラット/90日間/経口/原体) T-12 : Syngenta Central Toxicology Laboratory (英国)、2005年、未公表
- 32 1年間反復経口投与毒性(イヌ/経口/原体) T-14 : Syngenta Central Toxicology Laboratory (英国)、2006年、未公表
- 33 反復経口投与毒性/発がん性併合(ラット/24ヶ月/混餌/原体) T-15 : ICI Americas Inc., Environmental Health Center (米国)、1988年、未公表
- 34 発がん性(マウス/18ヶ月/混餌/原体) T-16 : Stauffer Chemical Co. Environmental Health Center (米国)、1986年、未公表
- 35 繁殖性(ラット/2世代/混餌/原体) T-17 : Stauffer Chemical Co. Environmental Health Center (米国)、1986年、未公表
- 36 催奇形性(ラット/経口/原体) T-18 : Stauffer Chemical Co. Environmental Health Center (米国)、1986年、未公表
- 37 催奇形性(ウサギ/経口/原体) T-19 : WIL Research Laboratories (米国)、1985年、未公表
- 38 変異原性(復帰突然変異/サルモネラ菌・大腸菌) T-20 : Zeneca Central Toxicology

- Laboratory (英国)、2000年、未公表
- 39 変異原性 (遺伝子突然変異/マウスリンホーマ細胞) T-21 : Syngenta Central Toxicology Laboratory (英国)、2005年、未公表
- 40 変異原性 (染色体異常/培養ヒトリンパ球) T-23 : ICI Central Toxicology Laboratory (英国)、1990年、未公表
- 41 変異原性 (小核/マウス/骨髄細胞) T-24 : Stauffer Chemical Co. Environmental Health Center (米国)、1985年、未公表
- 42 混餌試験における体重減少と摂餌量への影響の検討 (ラット/原体) T-27 : Zeneca Central Toxicology Laboratory (英国)、1999年、未公表
- 43 嗜好性試験 (ラット/混餌/原体) T-28 : Syngenta Central Toxicology Laboratory (英国)、2001年、未公表
- 44 制限給餌試験 (ラット/混餌/原体) T-29 : Syngenta Central Toxicology Laboratory (英国)、2004年、未公表
- 45 回復期間を含む14日間経口投与毒性試験 (ラット/経口/原体) T-07 : ICI Central Toxicology Laboratory (英国)、1991年、未公表
- 46 食品健康影響評価について (平成19年8月21日付け厚生労働省発食安第0821003号)
- 47 プロスルホカルブの追加試料要求事項に対する回答書 : シンジェンタ ジャパン株式会社、2008年、未公表
- 48 食品健康影響評価の結果の通知について (平成21年4月16日付け府食第384号)
- 49 食品、添加物等の規格基準 (昭和34年厚生省告示370号) の一部を改正する件について (平成22年8月10日付け厚生労働省告示第326号)
- 50 食品健康影響評価について (平成23年6月8日付け厚生労働省発食安0608第7号)
- 51 農薬抄録プロスルホカルブ (除草剤) : シンジェンタ ジャパン株式会社、平成23年3月3日改訂、一部公表予定
- 52 プロスルホカルブの作物残留試験成績 : シンジェンタ ジャパン株式会社、未公表
- 53 プロスルホカルブの海外作物残留試験成績 : シンジェンタ ジャパン株式会社、未公表
- 54 魚類に対する生物濃縮性に関する試験成績 : シンジェンタ ジャパン株式会社、未公表
- 55 プロスルホカルブの魚介類における最大推定残留値に係る資料
- 56 食品健康影響評価に係る追加資料の提出について (平成24年2月16日付け食安基発0216第1号)
- 57 マウスリンホーマ細胞を用いた *in vitro* 遺伝子突然変異試験 T-22 : Stauffer Chemical Co. Environmental Health Center (米国)、1985年、未公表

- 58 HeLa S3 細胞を用いた *in vitro* 不定期 DNA 合成 (UDS) 試験 T-25 : Huntingdon Research Centre (英国)、1987 年、未公表
- 59 ラット脳由来およびヒト組み換えアセチルコリンエステラーゼを用いた *in vitro* 活性測定試験 T-30 : Syngenta Central Toxicology Laboratory (英国)、2004 年、未公表
- 60 原体混在物①のラットにおける急性経口毒性試験 T-31 : Safeparm Laboratories Limited (英国)、2005 年、未公表
- 61 原体混在物①の細菌を用いた復帰突然変異試験 T-32 : Syngenta Central Toxicology Laboratory (英国)、2005 年、未公表
- 62 原体混在物①のヒトリンパ球を用いた *in vitro* 染色体異常試験 T-33 : Syngenta Central Toxicology Laboratory (英国)、2006 年、未公表
- 63 国民栄養の現状－平成 10 年国民栄養調査結果－ : 健康・栄養情報協会編、2000 年
- 64 国民栄養の現状－平成 11 年国民栄養調査結果－ : 健康・栄養情報協会編、2001 年
- 65 国民栄養の現状－平成 12 年国民栄養調査結果－ : 健康・栄養情報協会編、2002 年